

直轄事業の新規事業候補箇所の選定の考え方

平成26年3月4日

国土交通省 北陸地方整備局

1) 防災・減災

- ・北陸地方の直轄国道のうち、連続雨量などの気象条件により通行規制がかかる区間が依然として存在。
- ・大規模地震に対する脆弱性を有する区間が存在。

→ 集中降雨や大規模地震に対する防災・減災対応が重要（対応すべき課題：防災対応・災害対応）

2) 円滑な交通確保

- ・北陸地方の直轄国道のうち、主要渋滞箇所は279箇所存在。
- ・これは北陸全体の主要渋滞箇所(649箇所)の約43%。

→ 依然として大きな交通課題（対応すべき課題：渋滞緩和・改善）

3) 安全・安心な移動

- ・北陸地方における地域の協議会等において特定した「事故危険区間」(全国約15,000箇所)が445箇所存在。
- ・降雪期の堆雪幅が確保されていない区間の延長は約379kmと全体(延長約1,030km)の約37%存在。

→ 依然として大きな交通課題（対応すべき課題：事故軽減・冬期支障への対策）

4) 救命救急（医療施設アクセス）

- ・北陸地方では、第三次救急医療施設へのアクセスに課題がある地域が依然として存在。

→ 十分な救急医療サービスが享受出来ない地域への、道路整備による支援が引き続き必要（対応すべき課題：第三次救急医療施設へのアクセス強化）

＜道路に係わる課題抽出の視点＞

課題		課題箇所抽出の視点
1)防災・減災	脆弱性	① 災害に対する脆弱性を有する区間
2)円滑な交通の確保	渋滞	② 地域の協議会等において特定された「主要渋滞箇所」を有する区間
3)安全・安心な移動	事故	③ 地域の協議会等において特定された「事故危険区間」を有する区間
	冬期支障	④ 除雪を考慮した路肩幅員が確保されていない区間
4)救命救急	救命救急	⑤ 市町村役場から第三次救急医療施設への経路

新規事業候補箇所の選定の考え方 選定の流れ

【対策未実施区間(新規事業候補対象区間)の抽出】

1. 北陸の直轄国道全線 (約1,000km)
 ○ 道路交通センサス区間毎に分割 **【245区間】**

2. 改築事業実施中以外の区間 (新規事業候補区間抽出)
 ○ 改築事業中区間及び並行する現道区間を除外 **【139区間】**

3. 課題抽出の視点 (いずれかの項目に該当)

- ①脆弱性: 災害に対する脆弱性を有する区間 **(35区間)**
- ②渋滞: 主要渋滞箇所を有する区間 **(66区間)**
- ③事故: 事故危険区間を有する区間 **(100区間)**
- ④冬期支障: 除雪を考慮した路肩が未確保の区間 **(59区間)**
- ⑤救命救急: 医療施設へのアクセス経路に該当する区間 **(54区間)**

4. 事業の必要性や効果、事業実施環境の確認 **【2区間 (1箇所)】**

○ 上記区間のうち、事業の必要性や効果、事業実施環境(都市計画・環境影響評価等)を踏まえて選定

H26 新規事業候補箇所の選定結果

一般国道41号 大沢野富山南道路

課題	課題抽出の視点		判定	
① 脆弱性	災害に対する脆弱性を有する区間	脆弱性を有する区間	・大規模地震に対する防災機能評価がC又はD ・事前通行規制区間や災害危険箇所に該当	事前通行規制区間及び災害実績等
② 渋滞	主要渋滞箇所	主要渋滞箇所を有する区間	・主要渋滞箇所に該当	主要渋滞箇所公表資料(H24)
③ 事故	事故危険区間	事故危険区間を有する区間	・事故危険区間に該当	事故危険区間公表資料(H24)
④ 冬期支障	冬期路肩未確保区間	1次堆雪帯が確保されていない区間	・1次堆雪帯未確保区間に該当	道路幅員及び気象データ
⑤ 救命救急	医療アクセス	第三次救急医療施設へのアクセス経路	・アクセス経路上の区間に該当	現況道路網(H22)